

## 通信

■特集記事

スペシャル座談会

聞かせて先輩!! - IPUHSの過去・現在・未来 -

■国際交流委員会より

■県立医療大学トピックス

■車いすバスケットボール特任コーチとしての活動報告

～東京2020パラリンピック大会に参加して～

理学療法学科 准教授 **橘 香織**

■バスケ・車いすバスケの医療救護活動報告

～東京2020オリンピック・パラリンピック大会に参加して～

附属病院 副院長兼診療部長 **六崎 裕高**

■NEWS&INFORMATION

■藝游會より ■ハイブリット型就職活動のはじまり

■Coffee Break (医科学センター)

## 国際交流委員会より

## ドイツ・ボッフム健康科学大学と国際交流に関する覚書を締結しました！



令和3年6月23日に、ドイツ連邦共和国・ボッフム健康科学大学(HSG Bochum・Hochschule für Gesundheit)との間で、「医療」・「健康」の分野での国際交流の促進を目的とした覚書を締結しました。ボッフム健康科学大学は、ドイツでもまだ数少ない医療系の4年制学部と大学院を有する大学です。

今後、共通の研究プロジェクト、交流プログラム、IT技術を活かした共同研究などを推進して次世代のリハビリテーション、看護の手法などを創出していくことにより、健康、社会、技術等に関する課題の解決及び健康科学に関する研究を行う予定です。

さらに、この覚書に基づき、両校において、これらの活動を通じて、次世代の技術や新しいコンセプトの看護・介護方法の開発を推進し、医療・福祉や医療技術の新しいソリューションに貢献するとともに、健康科学の研究分野の発展に貢献してまいります。



協定書に調印を行う本学学長

## オンラインカンファレンスを行いました

令和3年9月24日(金)に、ボッフム健康科学大学とオンラインによるミニカンファレンスを開催しました。ボッフム健康科学大学ティムレック学長と本学の松村学長による基調演説から始まり、お互いの大学の概略や展望の紹介、4分野(助産学専攻科、看護学科、作業療法学科、学部生)に分かれての学術交流会を行うなど、盛況のうちに閉会いたしました。

## 台湾・高雄医学大学とオンラインによる共同授業を開催しました！



オンライン交流後の台湾学生・教員と記念写真撮影

令和2年からは新型コロナウイルス感染症のため、相互訪問での国際交流は中断していますが、令和3年は4月から6月にかけて本学作業療法学科の学生が台湾・高雄医学大学作業療法学科の授業「Application of Assistive Technology」におけるグループワークへオンラインにて参加しました。この授業は、高齢者や身体に何らかの障害を負われた方々の日常生活を助ける自助具について、台湾学生さんと協働して議論し、考案・設計と3Dプリンターでの作製、そして実際に高齢

者や患者さんに使ってもらい、作製した自助具の使用性・有用性の有無を確認するといった内容の授業です。

また、その自助具のデザイン構想(the design concept)、使用方法、実際の使用における実用性や感想について、相互に英語でオンライン発表を行い、台湾で福祉用具サービスを提供している病院・施設の作業療法士から評価やフィードバックをいただき、また学生同士の意見交換を通じて医療専門領域での国際協働交流を行うことができました。今回、オンラインを通じて、外国の作業療法学生と一緒にいったグループワーク(協働作業)は特別で有意義な経験になりました。



オンライン交流での発表および台湾学生とのディスカッション

## Topic1

### 看護学科

## 歴代初の男性の学科長が誕生しました

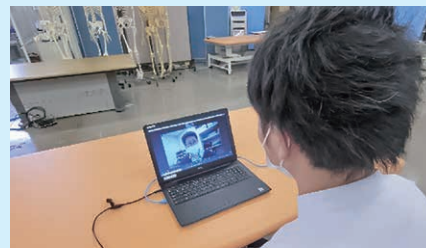
令和3年度の看護学科の出来事という、学科長が交代したことが挙げられます。なんと歴代初の男性の学科長の誕生です！私たちはその歴史的な瞬間に立ち会ったのです…と言うと大げさですが、コロナ禍という荒波を乗り越えてゆく船頭になってくれることを期待します。また、今年は国際交流においても本学科の教員が活躍しました。詳細な内容は国際交流委員会の報告に譲りますが、ドイツ連邦共和国のポッフム健康科学大学とオンラインでのカンファレンスにて、教員と付属病院看護部との協働で実施している「難病サロン」についてプレゼンテーションをしました。難病サロンは、地域で生活する難病患者と家族の交流を目的としており、年間4回程度、本学構内で開催しているものです。主な活動は、互いの状況報告、ピアノ演奏会や七夕の短冊作りなど、参加者の親睦を深める活動の他に、嚥下機能低下予防の体操や看護学科学生による健康教育なども実施しているものです。海外との情報交換を通じ、今後も更なる発展が期待されます。

## Topic2

### 理学療法学科

## OSCEでZoomを用いた面接を実施しました

理学療法学科では、年2回総合臨床実習前と後に客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）を実施しています。OSCEは、臨床現場で必要とされる判断力・技術力・マナーなどの能力を模擬患者とのやり取りのなかで確認することで、より実践的な能力を高める試験です。理学療法学科のOSCEでは、理学療法領域の大学院生が患者役となり、各実習地の経験豊かな理学療法士の方に試験官をご担当いただき、より広い視点から学生の臨床能力を確認してきました。しかし、コロナ禍においては、多くの方に直接関わっていただくことが難しくなりました。そこで、オンライン技術をOSCEの一部に導入しました。



写真は、画面越しの模擬患者に対して、学生が問診をしている様子です。模擬患者といえども学生にとっては初対面の相手ということもあり、適度な緊張感を持ってOSCEに望んでいました。まだまだ、感染対策のため様々な制限等がありますが、学生の学びや経験の機会を損なうことがないよう良いものは積極的に活用し教育へ活かしていきたいと思います。

## Topic3

### 作業療法学科

## ポッフム健康科学大学との共同研究を開始しました！

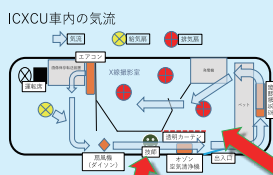


台湾高雄医学大学とのオンライン共同授業を開始し、更なる国際交流を深めているところですが、ドイツ連邦共和国のポッフム健康科学大学との交流も始まりました。作業療法学科では、木口尚人助教をチームリーダーとした「社会的処方」についての研究をはじめとした2つの共同研究がスタートしています。オンラインカンファレンスは、第1回が令和3年9月23日に、第2回が12月10日に開催されました。本学作業療法学科からも6名の教員が参加し、1時間ほどのカンファレンスでは時間が足りないほどでした。両国間に文化や社会的背景などの違いがあることは想像が付きやすいと思いますが、実は、日本とドイツの作業療法教育事情は似ているところが多くあるようです。今後の新型コロナウイルス感染状況次第では、両国の行き来も含めた交流となる予定です。今後の作業療法学科の教育・研究における国際交流にもぜひご注目ください！

## Topic4

### 放射線技術科学科

## コロナ陽性患者の遠隔診断を可能にする車両を開発しました



令和2年度 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による支援を受け「遠隔診療機能を装備し感染防護対策されたエックス線診療車の開発」が行われました。この開発には、本学放射線技術科学科小林助教が参画し、茨城県立医療大学、産業技術総合研究所、筑波メディカルセンター、北里大学などの共同研究で実用化に至っています。

車内では、胸部レントゲン撮影、超音波検査、心電図、血圧測定が可能です。感染対策のために気流の制御、オゾン、UVによる空気清浄が施され、医療従事者の感染リスクを限りなく低くできます。また、オンラインによる遠隔診断が可能のため医師の感染リスクはありません。

現在は、COVID-19 陽性患者の療養施設に配備され、初期の肺炎診断に役立てられています。今後はその機動性を活かし、遠隔診療や災害医療への活用も期待されます。

## Topic5

### 人間科学 センター

## ヨガやエクササイズの授業を遠隔で行いました

人間科学センターは、本学における教養科目にあたる基礎科目分野の領域を担当しており、学生が各学科で専門知識を学ぶための基盤となる教養や、社会に出る前に備えておくべき幅広い見識と深い理解力を養うことができるよう日々活動しています。必修科目として学科を交えて学生が一堂に会する授業も多く、学生達が広く交流を持つ場を提供するとともに、大学生生活の日常を見守る役割も果たしてきました。

しかしながらコロナ禍においてはその日常が一変し、これまでとは異なる形での関わり方が求められました。教員達も試行錯誤を重ねながら、学生達が少しでも良い学びを得られるように努めています。「保健・スポーツⅠ、Ⅱ」や「スポーツ科学実習」の授業では、スポーツを「仲間と共に楽しむ」ことが難しい状況にある一方で、「自身の身体と向き合う」ことを丁寧に行える時間が増えたと捉え直し、個人で行えるトレーニングやストレッチ、ヨガやエクササイズ等を遠隔授業で行ってきました。

最近では感染状況に合わせて対面授業を行える機会も多くなり、友人達と楽しそうにスポーツを行う学生達の姿を見ると、人が集って同じ空間を共有することの尊さを改めて感じます。これまで当たり前であったことの本当の価値に気付けたことや、未曾有の状況に置かれたからこそ生まれた新たな知恵を今後の糧とし、より良い大学生生活の一助となるよう今後も尽力したいと思えます。

## Topic6

### 医科学 センター

## 医科学センターの教育～2021年～

医科学センターは、本学における基礎医学、社会医学、臨床医学の分野の教育を担当するとともに、これらの分野の基礎的研究を推進する組織です。医科学センターの開講科目はほとんどが1・2年生対象の必修科目となっており、講義のみならず実習・演習科目も展開しています。そのため、この2年間はコロナウィルス流行の影響を強く受けました。

医科学センターの担当する実習・演習系の授業では、標本、生体組織、実験器具・装置、ときにはお互いの身体に触れながら学ぶ場面が多くあります。コロナ禍に入り、本学と同じような保健医療系大学の中には、このような実験や実技を伴う実習科目も遠隔で実施するところも少なくなかったようです。それはそれで担当される教員の方々には大変な苦労があったと思いますが、本学医科学センターでは学生同士が協力し合い学び合うことを最重要視し、ほぼ全ての実習系授業を登校・対面で実施してきました。

全四学科で必修科目となっているものが多い医科学センターの実習系授業では、各学科の専門科目とは異なり、たくさんの履修学生がいます。その多くの学生たちに安心安全の授業を受けてもらうため、授業前の健康観察、検温、手洗い、正しいマスク着用、換気などの基本的な感染対策の徹底はもちろん、履修者を細かく振り分けて同席人数を制限したり（そのために授業計画も全て練り直し）、コロナウィルス感染症対策の意義について授業内でミニレクチャーを行うなど、感染予防の意識を啓蒙してきました。また、一方通行の講義型授業だけでなく、反転型授業（知識は事前に予習し、授業ではディスカッションや演習を中心とする）を導入した科目もあり、コロナ禍であるからこそ、大学に来て、他者と共に学ぶ意義や大切さをしっかりと理解してもらうように心がけてきました。その努力の甲斐があって（かどうかはわかりませんが）、対面授業では学生たちの表情はとても生き生きとしていて、例年以上に真剣に取り組む姿が見られました。

現代社会が初めて経験する未曾有の事態に大学も右往左往させられたこの2年間でしたが、今まで当たり前だと思っていた教育の在り方を見直し、新しい時代の大学教育を模索する機会にもなりました。変化し続ける現代社会に柔軟に対応できる機動力のある教育を、これからも心がけていきたいと思えます。

## Topic7

### 事務局

## 令和4年度入試から社会人特別選抜を開始いたしました

超少子高齢化社会を迎えようとしている日本では、医療を担う人材の育成が今後ますます重要性を増していきます。また、近年では予防医学が非常に重要視されてきており、病院や施設での看護、介護、リハビリテーションのみならず地域での活動など、医療職が活躍する現場も多様化しております。そのような状況を見据え、本学では変化し続ける世界に対応できる優秀で多様な人材を育むべく、社会人特別選抜を実施することにいたしました。

本学で行う社会人特別選抜では、2年以上の社会人経験を有し、入学時に23歳に達している茨城県在住者または茨城県内の高校等出身者等を対象とします。大学共通テストの受験は課さず、総合問題、小論文および面接（及び出願書類）により判定します。従来の選抜の枠とは別に、保健医療学部の各学科（看護学科、理学療法学科、作業療法学科、放射線技術科学科）で若干名を募集いたします。それまでに培った社会人経験を活かして、将来は茨城県の保健医療分野で活躍していただくことを期待しています。

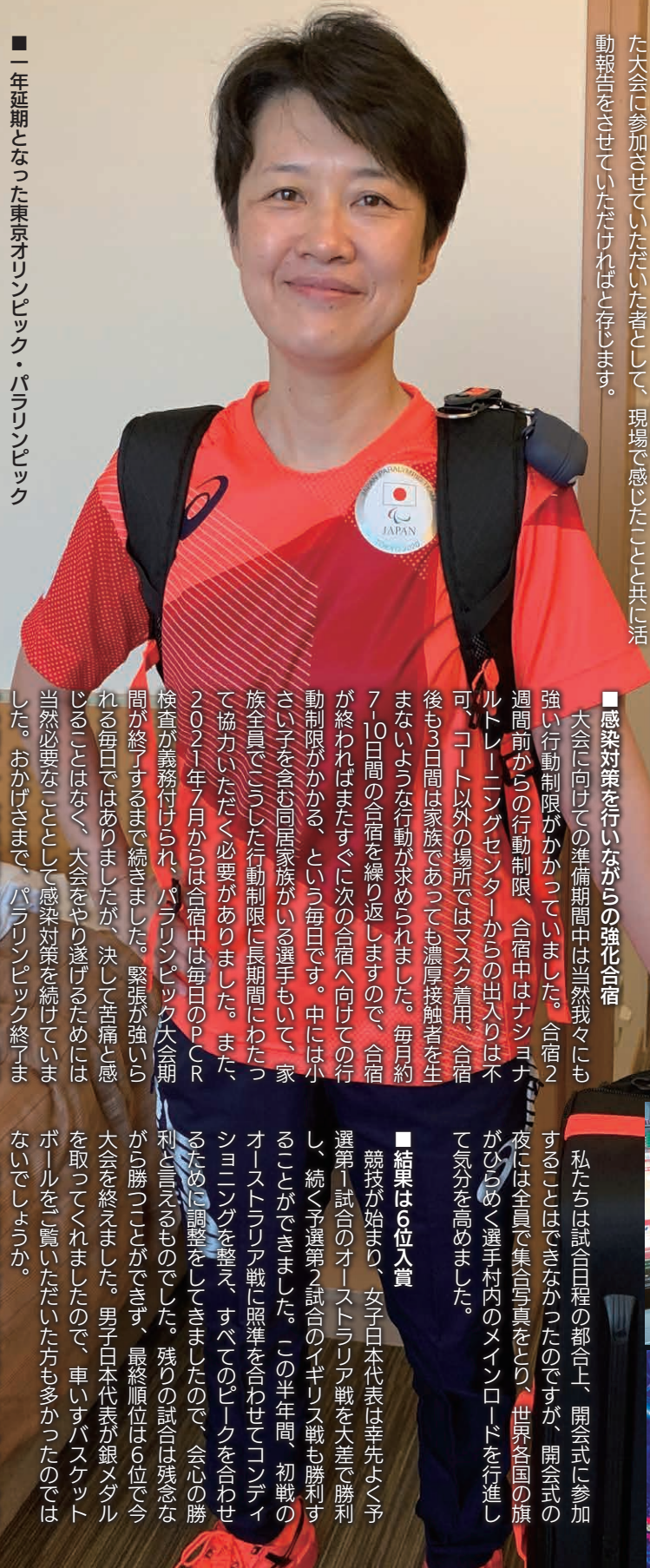


# 車いすバスケットボール特任コーチとしての活動報告

## 〜東京2020パラリンピック大会に参加して〜

茨城県立医療大学  
理学療法学科 准教授  
橘 香織

2021年夏、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。私は、東京パラリンピック車いすバスケットボール競技に女子日本代表チームの特任コーチとして参加する機会をいただきました。色々な意味で「いつもと違うオリンピック・パラリンピック」となった大会に参加させていただいた者として、現場で感じたことと共に活動報告をさせていただければと存じます。



### ■感染対策を行いながらの強化合宿

大会に向けての準備期間中は当然我々にも強い行動制限がかかっていました。合宿2週間前からの行動制限、合宿中はナショナルトレーニングセンターからの出入りは不可、コート以外の場所ではマスク着用、合宿後も3日間は家族であっても濃厚接触者を生まないような行動が求められました。毎月約7-10日間の合宿を繰り返しますので、合宿が終わればまたすぐに次の合宿へ向けての行動制限がかかる、という毎日です。中には小さい子を含む同居家族がいる選手もいて、家族全員でこうした行動制限に長期間にわたって協力いただく必要があります。また、2021年7月からは合宿中は毎日のPCR検査が義務付けられ、パラリンピック大会期間が終了するまで続きました。緊張が強いられる毎日ではありましたが、決して苦痛と感じることはなく、大会をやり遂げるためには当然必要なこととして感染対策を続けていました。おかげさまで、パラリンピック終了までの間、一人の感染者を出すこともなく活動を続けることができました。

### ■選手村に入って

選手村に入ると様々な国のユニフォームを着た人たちが集まっていて、とても不思議な気持ちになりました。いろいろな国の人がいていろいろな言葉を聞くのが本当に久しぶりで、この1年半のコロナ禍でここまで感覚が変わってしまったのかと驚いたものです。

### ■結果は6位入賞

私たちが試合日程の都合上、開会式に参加することはできなかったのですが、開会式の前には全員で集合写真をとって、世界各国の旗がひらめく選手村内のメインロードを行進して気分を高めました。

競技が始まり、女子日本代表は幸先よく予選第1試合のオーストラリア戦を大差で勝利し、続く予選第2試合のイギリス戦も勝利することができました。この半年間、初戦のオーストラリア戦に照準を合わせてコンディショニングを整え、すべてのピークを合わせるために調整をしてきましたので、会心の勝利と言えるものでした。残りの試合は残念ながら勝つことができず、最終順位は6位で今大会を終えました。男子日本代表が銀メダルを取ってくれましたので、車いすバスケットボールをご覧いただいた方も多かったのではないのでしょうか。

なお、今回の大会では、実はとても多くの茨城県立医療大学卒業生の方々がかわつてくださっていました。車いすバスケットボールだけでも、代表チームのマネージャー、競技役員、大会会場や練習会場でのケガの対応などに備えるメディカルスタッフなどの立場で、あちこちで活躍する仲間を見つけることができました。競技に参加する者として、皆さんのご支援と笑顔にどれだけ力づけられたことでしょうか。本当にありがとうございます。



### 経歴

- 1999年 茨城県立医療大学理学療法学科卒業 横浜にて車いすバスケットボールを始める
- 2007年 茨城県立医療大学理学療法学科入職 (現職 准教授)
- 2008年 車いすバスケットボール女子日本代表マネージャーとして北京パラリンピック出場
- 2011年 車いすバスケットボールU25女子日本代表ヘッドコーチ
- 2013年
- 2017年 車いすバスケットボール女子日本代表ヘッドコーチ
- 2020年
- 2021年 車いすバスケットボール女子日本代表特任コーチ

## バスケット・車いすバスケットの医療救護活動報告

～東京2020オリンピック・パラリンピック大会に参加して～

茨城県立医療大学付属病院 副院長兼診療部長 六崎 裕高



▲オリンピックバスケットボール会場にて

2020東京オリンピック・パラリンピックは新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、1年間の延期の後の開催となりました。通常の大会とは大きく異なり、感染対策が徹底され、毎日のPCR検査、マスク・フェイスシールド・手袋が義務付けられ、さらに、無観客での開催となりました。大会期間中に感染第5波が襲来し、厳しい世論にさらされました。ボランティアの医療スタッフはそれぞれの勤務先の医療施設での感染症対応から、直前でのキャンセルが相次ぎ、組織委員会は大会医療スタッフの確保が大変だったとかがっております。私自身も大会直前まで、参加を悩んでおりました。そのような厳しい状況の中、行われた大会ですが、全ての大会スタッフの方々の努力、責任感、使命感により、無事に終わることができたと思っています。実際に大会運営を経験し、大会を支えてくださった全てのスタッフの方々に感謝したいと思います。



▲車いすバスケットボール会場での心肺蘇生、救急搬送の訓練風景

今大会で私は、オリンピックでは、バスケットボール会場の選手用医師として、また、パラリンピックでは、車いすバスケットボール会場の選手用医療統括者として参加いたしました。その他、当院からは、パラリンピック車いすバスケットボール会場の選手用理学療法士として、吉川憲一さん、古関一則さんの2名が参加いたしました。2019年から運営に関して準備を行い、医療スタッフの配置、研修、教育を行ってきました。これまで経験したことがない大きな大会で、また、感染対策もあり、さらに、会場の選手医療の責任者でしたので、かなりの緊張感と重圧がありました。選手・スタッフ間での感染拡大をまねくことなく、また、大きなけがを受傷した選手もなく、無事に大会を終えることができました。多くの方々とお会いすることができ、また、多くの経験ができました。オリンピックでは、女子の銀メダル、パラリンピックでは、男子の銀メダルにも立ち会うことができ、感動も得ることができました。大会に参加することを許してくださった、茨城県立医療大学、茨城県立医療大学付属病院の皆様にご挨拶申し上げます。

## 新型コロナウイルス感染症臨時医療施設での活動報告

茨城県立医療大学付属病院 診療部 河野 豊

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、県内の病床が逼迫した時期に茨城県が「臨時医療施設」を設置し、付属病院から医師と看護師が派遣されました。他の医療機関から派遣された医療スタッフと協力しながら、抗体カクテル療法など新型コロナウイルス感染症の患者の治療に従事しました。普段の仕事とは異なり、戸惑うこともありましたが、職員一丸となって感染症に立ち向かい、茨城県の医療危機を乗り越えることができました。現時点では新規感染者数が少なくなり、派遣されていた職員は無事に任務を果たして、通常の業務に戻っています。派遣中は、付属病院を利用されている患者さんにはご不便をおかけしましたが、この経験を活かして、今後、よりいっそう皆様の力になれるように頑張りたいと思います。



▲中島病院長より感謝状をいただきました。皆さん、充実した素敵な笑顔です。(写真は8・9月に派遣された職員)  
(前列左から2番目が河野医師)



## 「病院の研修士として、何を行い何を学んでいるか」

研修士 理学療法士 田所 拓弥

私は、脳卒中患者へのリハビリテーションについて学ぶため、本学大学院に通いながら研修士として勤務しています。臨床では自分が学びたい分野だけでなく、整形疾患や神経難病といった様々な領域について知識を得ることができます。また、大学教員の指導の下、付属病院をフィールドとして臨床研究を行うことができる環境が整っており、経験豊富なスタッフとともに、幅広い分野の研究活動に参画することも可能です。

研修士制度を活用することで、大学院に通学し研究活動を行いつつ、臨床技術の向上も図ることができます。

研修士制度とは… 付属病院で働きながら、他分野に渡るリハビリテーションの知識と高度な臨床技術を習得できる制度です。勤務時間が正職員より短いため、空いた時間を研究や大学院への通学に充てることもできます。

## ■【IBARAKI FREE Wi-Fi】を整備しました



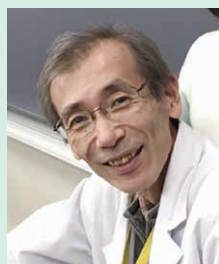
無料でインターネットが利用できる「IBARAKI FREE Wi-Fi」を、令和2年7月から本学福利厚生棟1階に、令和3年10月から附属図書館内(1階及び2階)に整備いたしましたので、ご報告いたします。

茨城県立医療大学関係者皆様におかれましては、「IBARAKI FREE Wi-Fi」の積極的なご利用をお待ちしております。

## ■令和3年度新規着任・昇任職員

松田 英子	4月1日着任 (助教 助産学専攻科)	林 諒子	4月1日着任 (助教 看護学科)
阿部 尚美	4月1日着任 (助教 看護学科)	滝澤 恵美	4月1日昇任 (教授 理学療法学科)
篠崎 真枝	4月1日昇任 (准教授 理学療法学科)	青山 敏之	4月1日昇任 (准教授 理学療法学科)
柴田 聡	4月1日着任 (助教 理学療法学科)	須田 匡也	4月1日着任 (准教授 放射線技術科学科)
瀧澤 英子	4月1日着任 (助教 人間科学センター)	中山 智博	4月1日配置換 (准教授 医科学センター)
鯨岡 裕司	4月1日着任 (准教授 付属病院)	石本 立	4月1日着任 (講師 付属病院)
河村 健太	5月1日着任 (助教 理学療法学科)	斉藤 瑛梨	9月1日着任 (助教 看護学科)
倉本 尚美	9月1日着任 (准教授 人間科学センター)	河野 了	10月1日着任 (教授 付属病院)
若山 修一	12月1日昇任 (准教授 作業療法学科)		

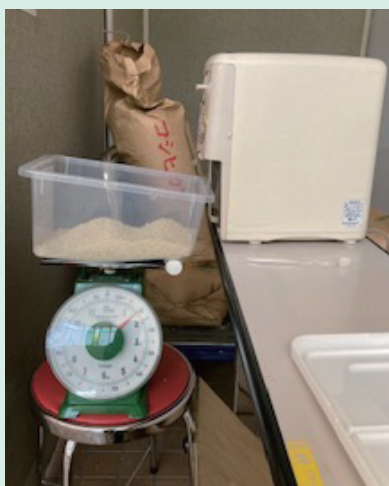
## ■令和3年度定年退職教員 ~本当にありがとうございました~



人間科学センター 教授  
大西 健

12年前に奈良大仏のある奈良から牛久大仏のある茨城に着任しました。振り返るとずーっと大仏に見守られた教員生活でした。お陰様で大変有意義な教員生活を過ごすことが出来ました。毎年、生物学の最初の講義では、新入生にニワトリを思った通り簡単に描いてもらって来ました。驚いたことに1割の新入生は4本足のニワトリを毎年必ず描きます。ニワトリは鳥類で2本足(後肢)であることを大学の講義で説明することに違和感がありながらも生命、生物とは何かの根本的なところから教育することの重要性を改めて感じているところです。

## ■今年度も在学生に対し多くの支援がありました



一度は収まりかけた新型コロナウイルス感染症も、最近は爆発的に感染拡大し、在学生の学生生活はまた大きく影響を受けています。そのような中、学生たちを気遣う方からたくさんの支援物資をいただきました。

地元阿見町の農家さんから、米袋1袋(約30キロ)を10袋もご支援いただいたときは、希望する学生に1人5キロずつ配布しました。すぐに売り切れてしまったため、配布を記録する写真が残っていません。

(左の図は、唯一残っていた写真で、事務局で精米にチャレンジしているところです。)

その他、生理の貧困問題を知った地元の方たちから、生理用品もご支援いただきました。

多くのご支援感謝いたします。



**第6回卒業生交流セミナーの開催報告**

令和2年度をもって定年退官されました大橋ゆかり先生（理学療法学科教授）より、令和3年2月26日に卒業生交流セミナーと共催で最終講義をして頂きました。テーマ「小さな発見と楽しむ ～出会いと一言芳恩～」全国からオンラインでの参加もあり、総計202名の卒業生や在学生、教職員にご参加いただきました。大橋先生への感謝の気持ちをこめて代表者より記念品等の贈呈をさせていただきました。

少しずつ寒さが和らぎ、春の気配を感じる頃となりました。日頃より、同窓会「藝游會」の活動推進にご理解・ご協力・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今年度7月25日（日）に17名の参加を得て定期総会を開催致しましたので、議事録より概要を抜粋してご報告いたします。

**同窓会報「藝游VOL・21」は大学ホームページからご覧になれます。**

各期の幹事の皆様より原稿をお寄せいただいております同窓会報「藝游」が、本学ホームページにアップされています。是非、下記のURLまたはQRコードよりご覧ください。なお、写真等が多数掲載されておりますことから、閲覧の際にパスワードの入力が必要となります。別紙でお届けしておりますパスワードにてご覧ください。

URL:<https://www.ipu.ac.jp/for-alumni/alumni-association-newsletter/>



**寄付事業「つなげよう！IPUHSプロジェクト」**

昨年度より大学と連携して始動しました在学生の経済的影響に対する支援「つなげよう！IPUHSプロジェクト」ですが、623万8106円（総会時点）のご寄付を賜りました。国による「学生支援緊急給付金」などの対象外となった学生270名を対象に、2万円の支給をいたしましたことはVol.008（2021年2月発行）にてご報告差し上げておりますが、残金約78万円の一部を「学生支援金」といたしまして、助成金等に該当しない学生を対象に費用補助を目的とした学生支援の一助に充てさせていただきたく存じます。

▼お問い合わせ▼

会長 橋 香織（PT1期生：茨城県立医療大学理学療法学科准教授） mail:tachibana@ipu.ac.jp

キャリア支援センター

ハイブリッド型就職活動のはじまり

今年度は対面での就職活動が少しずつ再開されましたが、『説明会や筆記試験はオンラインで実施し、面接は対面選考』等、ハイブリッド型を実施される医療機関等もありました。また、昨年度は慣れないオンライン化での情報収集に苦戦する学生もいましたが、今年度は医療機関等の情報発信がさらに工夫され、オンライン上で施設を案内してくださるなど「丁寧で分かりやすかった」と感想を述べている学生もいました。キャリア支援センターでも、感染予防を徹底したうえで、対面とオンラインを併用しながら就職活動の行事を開催いたしました。

◆ハイブリッド開催

6月の「放射線技術科学科就職説明会」ではオンラインと対面の同時開催を実施しました。音声等、実施環境について改善点はあるものの、学生からは「新人研修内容や働いている現場の方のお話を聞くことができ刺激になった」との感想がありました。



◆対面開催

4月「4年生ガイダンス」、8月「4年生夏の就活講座」、「3年生ガイダンス」を実施しました。「4年生の夏の就活講座」は外部講師を招き、履歴書の作成や自己PRの作り方・小論文対策講座を実施しました。

◆オンライン開催

3月「看護学科就職説明会」、8月・9月「作業療法学科就職説明会」をオンラインにて医療機関等の方にご参加いただき開催しました。また今年度より外部講師による医療現場での接遇や就職活動におけるマナーについて「マナー講座」を実施しました。

学生や卒業生の個別相談・面接練習については、メールやオンラインでも対応しております。今後も感染予防を徹底しながら、キャリア支援に取り組んでまいります。

▼お問い合わせ▼

茨城県立医療大学キャリア支援センター：029-840-2109 mail:career@ipu.ac.jp 業務時間：8:30~17:15(土日、祝日を除く)





## Coffee Break ~回顧録~共有するということ

昨年の東京オリンピック・パラリンピックは無観客開催となりましたが、テレビなどで競技を観戦し、元気をもらったという人もたくさんいたと思います。コロナウィルス流行の渦中でなければ、大学内でもパブリックビューイングを催し、学生・教職員の垣根無くみんなで盛り上がり、感動を共有できていたかもしれません。

実は過去に一度やったことがあります。2002年FIFA日韓W杯です。人間科学センター岩井浩一先生の粋な計らいで、大講義室で日本代表戦(日本対チュニジア戦)を観られることになり、たくさんの学生、教職員が集まりました。試合は日本が会心の勝利を収め、医療大会場は歓喜に包まれ…るはずだったのですが、なんと、試合中にプロジェクターが故障し、徐々に画面が暗くなってしまったのです。前半はまあまあ観戦できたものの、後半に入ると輝度がどんどん低下、選手もチームも判別できなくなり、最終的には「サッカーらしきものをやってる」暗い画面を数百人で観るといって、とてもシュールな状態に…。思わぬトラブルによって医療大史に残る？珍イベントとなってしまいました。このキャンパスが感動や興奮を共有する場となって、皆の心をつないだ素敵なひとときでした。

このような学び舎の枠を超えた大学の楽しみ方を、現在そしてこれから本学で学ぶ学生にもぜひ知ってもらいたい。このキャンパスを舞台に、立場の分け隔てなく、たくさんの素敵な体験を共有してもらいたい。卒業生教員の一人である私の願いです。感染症流行のせいで不便なことも少なくありませんが、状況をよく見極め、みんなで知恵を出し合って、素敵な体験を共有する機会をどんどん作ってってもらいたいと思います。

医科学センター 角 友起 (理学療法学科第5期卒業生)

## 茨城県立医療大学 IPUHS通信 vol.009

発行月：令和4年2月

発行：茨城県立医療大学

問合せ先：茨城県立医療大学

〒300-0394

茨城県阿見町阿見4669番地の2

TEL：029-888-4000

FAX：029-840-2301

本誌は年1回発行しております。

本誌に対するご意見ご要望を是非お聞かせください。

✉ [shomu@ipu.ac.jp](mailto:shomu@ipu.ac.jp)



茨城県立医療大学公式Webサイト

<https://www.ipu.ac.jp>

茨城県立医療大学 広報 Twitter

[@ipuhs\\_publicity](https://twitter.com/ipuhs_publicity)



茨城県立医療大学 広報 Facebookページ

[@ipuhs\\_publicity](https://www.facebook.com/ipuhs_publicity)

## 卒業生の方へ

卒業生との交流会等の企画・開催、大学情報を発信するため、勤務先や住所に変更があった時は、必ず電話又は書面もしくは本学ホームページに掲載している「卒業生連絡先等調査」入力フォーム(<https://www.ipu.ac.jp/for-alumni/contact-for-nurse/>)により、お知らせください。

